

## 平成30年度曾田SPIO奨学金受領者(ボストンより)

## 東京大学 西蔦大宣氏

2019年2月より1年間、アメリカ、ボストンのハーバード大学およびタフツ大学へ留学に行ってきたので報告をさせていただきます。

ボストンはアメリカで最も歴史の古い街の一つで、冬は非常に寒いですが、そのぶん夏は涼しい日も多く、過ごしやすい町です。街もコンパクトにまとまっており、ハーバード大学、MITなど世界的に名だたる大学や研究施設が多くあるため、留学者が多く、流動的な人に対する街や学校などのシステムも整っております。

今回の私の留学はハーバード大学およびタフツ大学で行いました。留学の supervisor である Holbrook 先生はハーバード大学耳鼻咽喉科の鼻科学のチーフで、鼻の臨床を行いながら、嗅覚に関する基礎研究を近隣のタフツ大学の Schwob 教授と共に長年に渡り行っております。そこで私はタフツ大学での基礎研究をメインに行いながら、臨床に関わること等はハーバード大学で行うという変則的な留学形態になりました。

研究内容としては、留学当初は嗅粘膜幹細胞の培養実験や嗅粘膜障害後のゲノム解析など、嗅覚に関わることを中心に様々な新しいことにチャレンジをしていきました。どれもなかなか結果が出ずに試行錯誤をしていく中で、最終的には嗅粘膜のイメージングがメインテーマとなりました。これは通常光では呼吸上皮との見分けのつかない嗅粘膜を可視化し、粘膜の状態を評価するというのが目的の研究です。最初はどこから手を付けていいのかの検討も付かなかったのですが、悪戦苦闘の末に嗅粘膜に特定のプローブを用いることで可視化できた時には感無量でした。この留学中は新型コロナウイルスの流行の前でしたが、折しも嗅覚障害が注目を集めている今、どうにかヒトへの応用ができるようにして臨床に還元できればと思っております。

留学では不十分な英語力や慣れない生活習慣等からの苦勞することも多かったですが、それ以上に得られたものは大きかったです。研究に集中してマイペースに働くことができる一方で、積極的に行動しないと何も進まないという境遇でもあり、柔軟性をもって積極的にコミュニケーションを図って仕事を進めていく自律性が身についたと思います。また最先端の生命科学の研究者や情報を間近で感じながら研究を進められたのは得難い経験でした。

生活面では妻および子供3人の家族とも一緒に渡米し、次々おこるマイナートラブルを共に乗り越えていきながら、週末には旅行へ行くなど、楽しく充実したアメリカ生活を過ごすことができました。子供たちは現地の学校へ編入し、友人も多くでき、アメリカ生活を楽しんでおりました。言葉の話せない子供たちを受け入れてくれる現地校の先生や友人には、多様性を受け入れるアメリカの懐の深さを感じました。異文化の環境に身を置いて生活していくことで、新たな価値観を身につけることができ、仕事だけに留まらない有意義なライフイベントとなりました。

今回の留学を曾田豊二 SPIO 奨学金でサポートしてくださいました国際耳鼻咽喉科学振興会に対し厚く御礼申し上げます。今回の留学で得た知見を還元できるよう努力していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いたします。



Holbrook 先生(右)と筆者



Schwob 先生、筆者

## 賛助員の募集について

SPIO では、毎年一口2万円以上ご寄附下さる賛助員を募集しております。なお、納入いただいた賛助費に対しては免税措置が得られます。加入につきましては事務局までお問い合わせください。賛助員加入申込書をお送りします。または申込書をホームページからダウンロードしてご使用ください。

<http://www.spio.or.jp>

## 税制上の優遇措置について

『公益財団法人』はすべてが寄附優遇の対象となる『特定公益増進法人』に該当するため、当財団への個人の寄附及び法人の寄附は従来どおりの『税優遇措置』の対象となります。平成29年10月24日以降は「所得控除」か「税額控除」いずれかの選択が可能となりました。

## 賛助費納入のお礼

2020年度も多くの賛助費を納入頂き、皆様のご理解とご支援に感謝いたします。今後とも引き続きご協力をお願い申し上げます。(285件 642万円)

## 令和2年度賛助費納入状況

賛助員	賛助費納入件数	金額(単位千円)
地方部会	46	1,020
医育機関	69	1,520
教授	87	1,770
准教授	4	80
個人	72	1,560
企業・その他	7	470
合計	285	6,420